CONTENTS

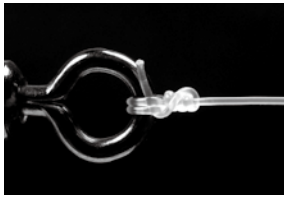
釣りの結び完璧BOOK 海釣り編 目次

◆仕掛け別の主な結び方
ウキ釣り仕掛け…… 4
サビキ仕掛け…… 5
投げ釣り仕掛け…… 6
ウキフカセ仕掛け…… 7
カゴ釣り…… 8
ルアーフィッシング…… 9
コマセ釣り…… 10
エサ釣り…… 11

COLUMN 知っておきたい結びのコツ…… 12

◆ノベ竿とミチイトの結び
チチワ結び…… 14
投げ縄結び…… 16
◆リールとミチイトの結び
ダブルユニノット…… 18

◆接続具やルアーなどの結び
クリンチノット…… 20
ダブルクリンチノット…… 22
ユニノット…… 24
8の字結び（エイトノット）…… 26
編み付け結び…… 28
スイベルノット…… 30
深海結び…… 32
簡単移動結び…… 34
パロマーノット…… 36
漁師結び…… 38
ハングマンズノット…… 40
ダブルチチワ結び…… 42
フリーノット…… 44
ハリソンズループ…… 46
スッテや弓ヅノの結び…… 48



COLUMN あると便利な結びの「ツール」…… 50

◆ハリの結び
内掛け結び（1）…… 52
内掛け結び（2）…… 54
外掛け結び…… 56
フィンガーノット…… 58
簡単結び…… 60
スネルノット…… 62
枕結び…… 64
南方延縄結び…… 66

ハリスのチモト補強…… 68
孫バリの結び…… 70
アシストフック（1）…… 72
アシストフック（2）…… 74
アシストフック（3）…… 76

COLUMN 「ハリ結び器」を使ってみる…… 78

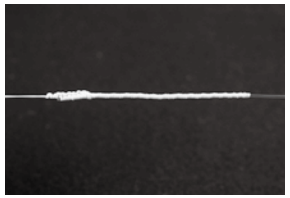
◆ラインと同士の結び
トリプルエイトノット…… 80
サージャンズノット…… 82
ブラッドノット…… 84
電車結び（1）…… 86
電車結び（2）…… 88
ループトゥループ…… 90
◆枝ハリスの結び
サージャンズノット改…… 92
ヨリチチワ結び…… 94
無限結び…… 96
ビーズ結び…… 98
◆ヨリイトの結び
ヨリイトの作り方…… 100
◆ウキ留めの結び
ウキ留め結び…… 102

COLUMN 本当に「強い結び」とは？…… 104

◆ループの結び
パーフェクションループ…… 106
スパイダーヒッチ…… 108
ビミニツイスト…… 110

◆ PE ラインとリーダーの結び
FG ノット…… 114
SF ノット…… 118
フィッシャーマンノット…… 120
ファイヤーノット…… 122
PR ノット…… 124

奥付…… 128



現在、釣りに使われている定番の結び方には、それぞれに特徴がある。強度はそこそこだが初心者でも簡単に結べるもの、結ぶ手間はかかるが強度抜群なもの、夜でも手早く結べるもの、手袋をはめたままでも結べるもの、老眼でも結べるもの……。釣りにおけるさまざまな状況を想定したこうした結び方が、先駆者たちによって考案されてきたわけだ。

本書では、それらの結びの中でも海釣りで多用される基本的、かつ強度にも優れたオススメの結び方を網羅した。結び方がよくわかるように要所の指使いをイラスト化しているので、ぜひ自分で一番結びやすい方法を見つけ出して明日の釣りに活かしてみたい。

堤防

ウキ釣り

ノベ竿の仕掛けでは「チチワ結び」が欠かせない！

主な対象魚
アジ、サバ、メジナ、ウミタナゴ、サヨリ、メバル、ハゼなど

穂先

チチワ結び➡P.14
投げ縄結び➡P.16

ノベ竿にミチイトをセットする場合、穂先がリリアンタイプなら「チチワ結び」、金属タイプなら「投げ縄結び」を利用すればよい。

ウキ

ミチイト

クリンチノット➡P.20
ダブルクリンチノット➡P.22
ユニノット➡P.24
深海結び➡P.32

接続具
（サルカン）

クリンチノット➡P.20
ダブルクリンチノット➡P.22
ユニノット➡P.24
8の字結び➡P.26

ハリスは交換が多くなるので、手早く結べる方法が便利。初心者には、簡単で強度にも優れる「8の字結び」などもオススメだ。

ハリス

内掛け結び➡P.52
外掛け結び➡P.56
フィンガーノット➡P.58

ハリ

堤防

サビキ釣り

リールにミチイトを巻くときの結び方を覚えておこう

主な対象魚
アジ、サバ、イワシ、コウナゴ、ニシン、ウミタナゴなど

ミチイト

クリンチノット➡P.20
ダブルクリンチノット➡P.22
ユニノット➡P.24
8の字結び➡P.26

市販のサビキ仕掛けを利用すれば、実質、ミチイトと接続具の結びだけできれば釣りを楽しめる。

無限結び➡P.96

万一、枝バリが切れてしまった場合、予備のハリスを無限結びなどでリセットするとよい。

枝ハリス

サビキバリ

幹イト

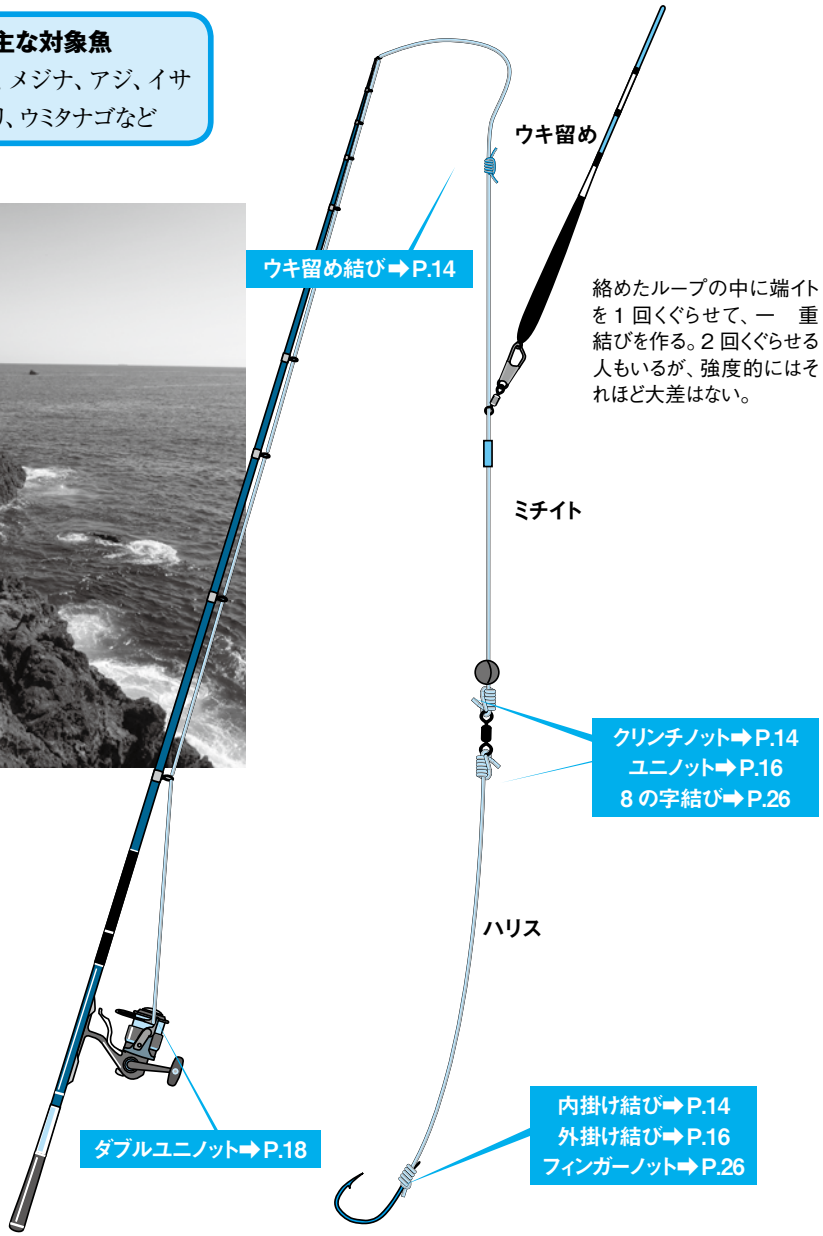
ダブルユニノット➡P.18

オモリ

磯・堤防 ウキフカセ釣り

「ウキ留め結び」は必須の結び。ハリの結び方も覚えておきたい

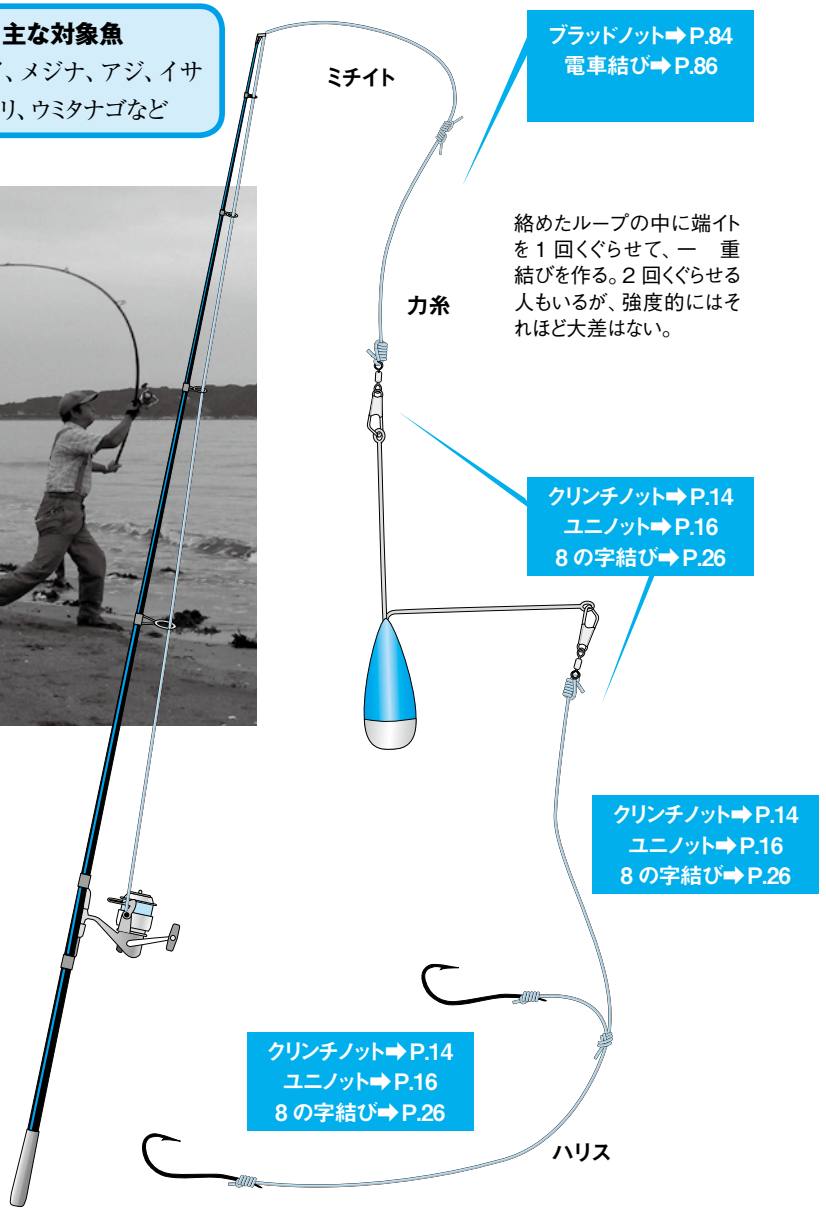
主な対象魚
クロダイ、メジナ、アジ、イサキ、サヨリ、ウミタナゴなど



堤防・海岸 投げ釣り

力糸（ちからいと）とミチイトの結節は確実に！

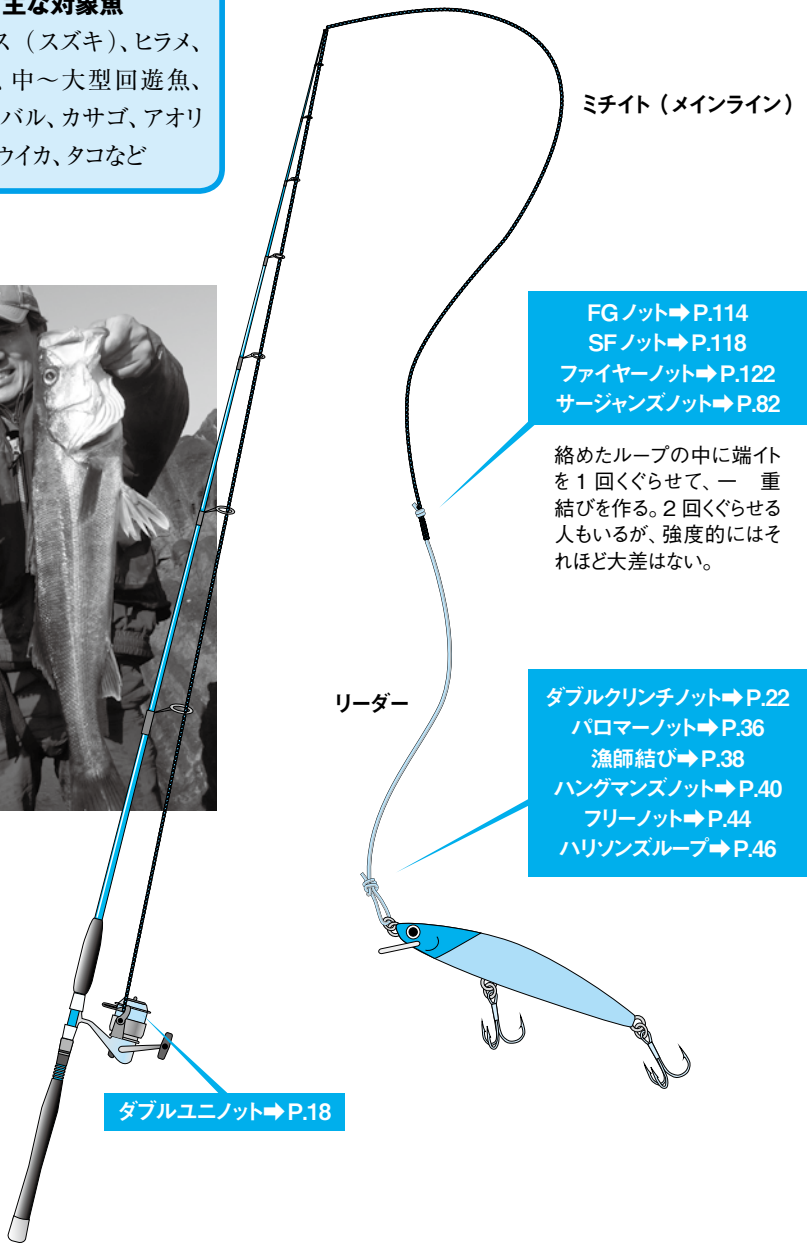
主な対象魚
クロダイ、メジナ、アジ、イサキ、サヨリ、ウミタナゴなど



堤防・海岸・磯 ルアー釣り

PEラインを使う場合は、リーダーの結節が必須！

主な対象魚
シーバス（スズキ）、ヒラメ、マゴチ、中～大型回遊魚、アジ、メバル、カサゴ、アオリイカ、コウイカ、タコなど



FGノット➡P.114
SFノット➡P.118
ファイヤーノット➡P.122
サージャンズノット➡P.82

絡めたループの中に端イトを１回くぐらせて、一　重結びを作る。２回くぐらせる人もいるが、強度的にはそれほど大差はない。

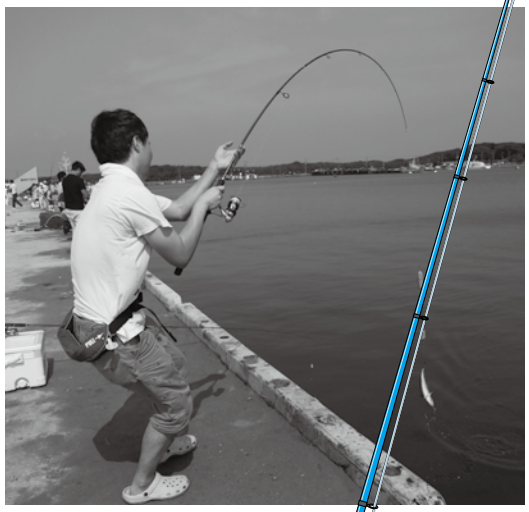
ダブルクリンチノット➡P.22
パロマーノット➡P.36
漁師結び➡P.38
ハングマンズノット➡P.40
フリーノット➡P.44
ハリソンズループ➡P.46

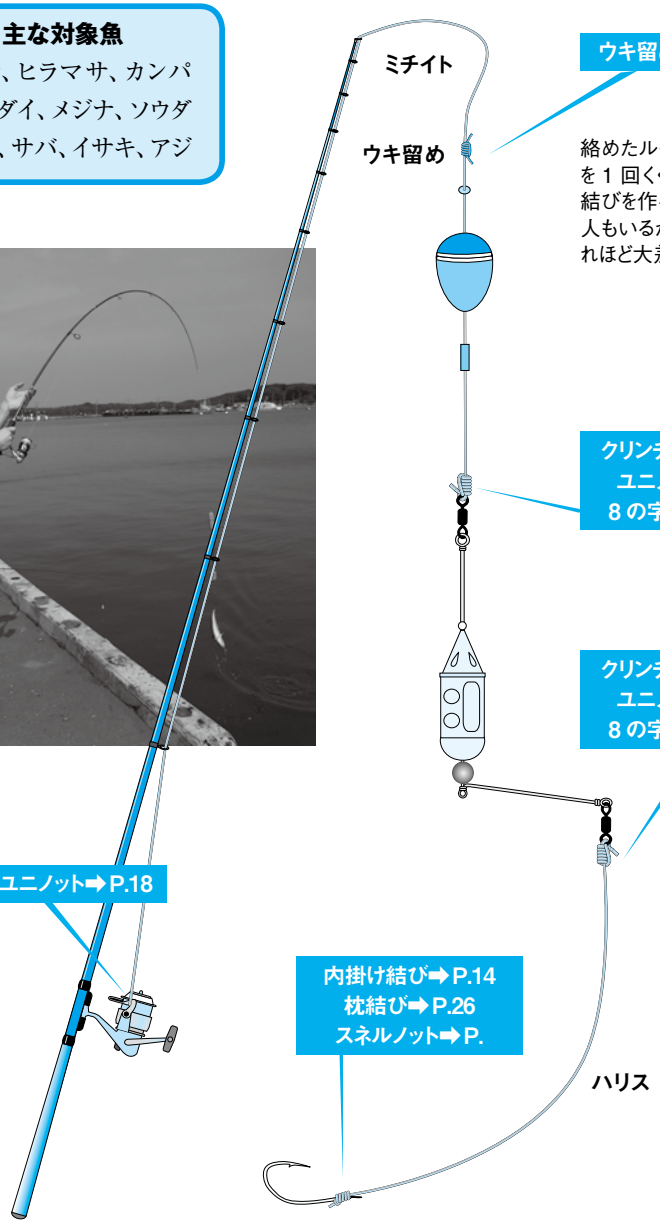
ダブルユニノット➡P.18

磯・堤防 カゴ釣り

大型魚の引きにも対応できる強靭な結び方を採用したい

主な対象魚
ワラサ、ヒラマサ、カンパチ、マダイ、メジナ、ソウダガツオ、サバ、イサキ、アジ





ウキ留め結び➡P.18

絡めたループの中に端イトを１回くぐらせて、一　重結びを作る。２回くぐらせる人もいるが、強度的にはそれほど大差はない。

クリンチノット➡P.14
ユニノット➡P.16
８の字結び➡P.26

クリンチノット➡P.14
ユニノット➡P.16
８の字結び➡P.26

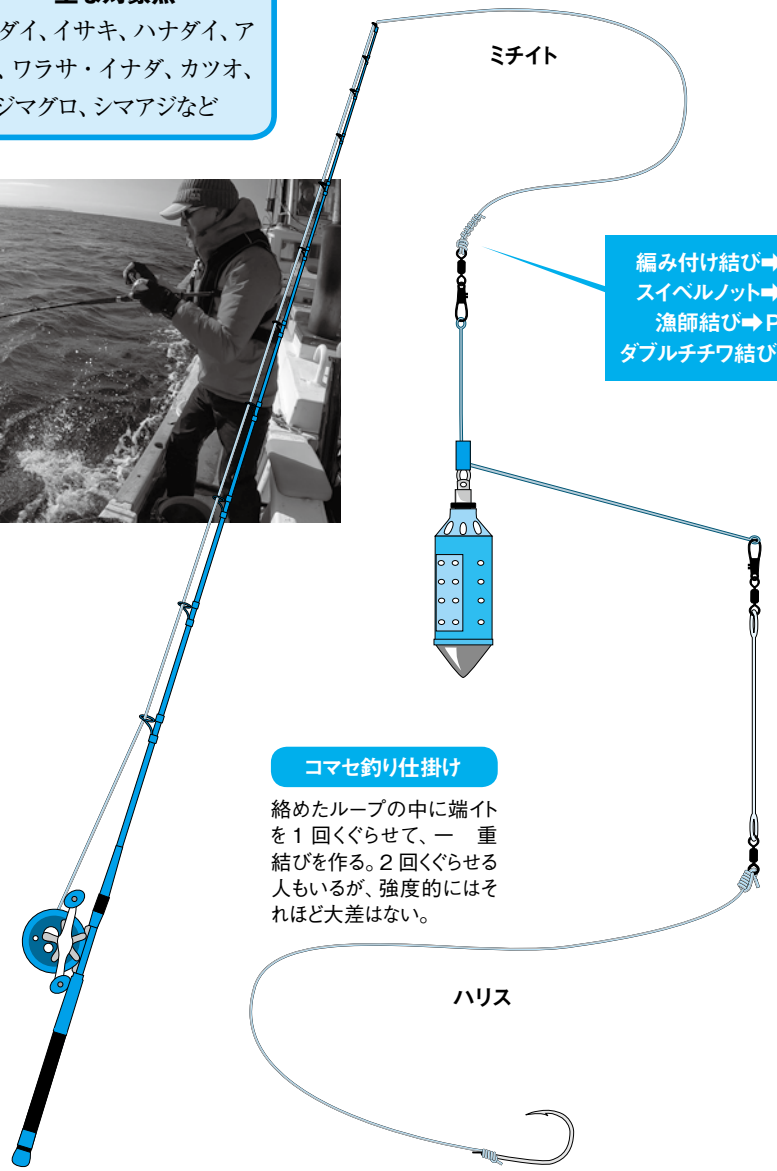
ダブルユニノット➡P.18

内掛け結び➡P.14
枕結び➡P.26
スネルノット➡P.

沖釣り

PEラインと接続具、そしてハリの結節は確実に！

主な対象魚
マダイ、イサキ、ハナダイ、アジ、ワラサ・イナダ、カツオ、メジマグロ、シマアジなど



胴突き仕掛け

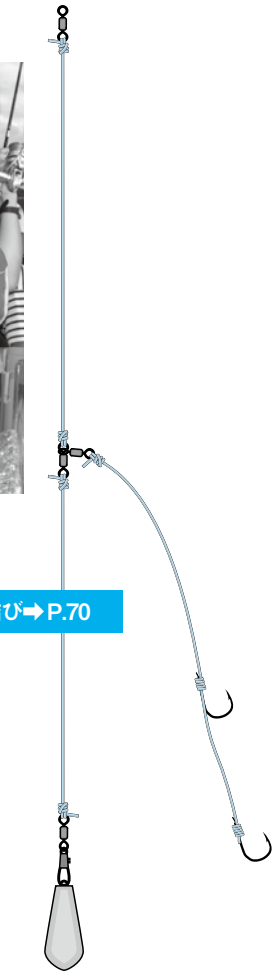
絡めたループの中に端イトを１回くぐらせて、一　重結びを作る。２回くぐらせる人もいるが、強度的にはそれほど大差はな

主な対象魚
カワハギ、メバル、カサゴ、イシモチ、フグ、ハナダイなど

泳がせ仕掛け

絡めたループの中に端イトを１回くぐらせて、一　重結びを作る。２回くぐらせる人もいるが、強度的にはそれほど大差はな

主な対象魚
ヒラメ、ワラサ、カンパチ、マトウダイ、根魚など



強い結びを作るための「コツ」

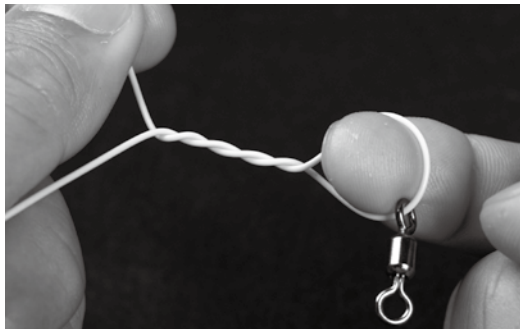
仕上がりの「美しさ」が重要。ていねいな作業を心がけたい

釣りイトを結ぶ方法は無数にあるが、それらの結びの強度をフルに発揮させるためには共通のコツがある。

まず、どんな結び方でも、結びつけるときのラインの「巻き付け回数」を守ることが大切。少なすぎるとスッポ抜けたりするし、多すぎてもラインつぶれて強度が落ちてしまうことがある。また、結びの最後でラインをしっかりと「締め込む」ことでも抜け防止になり、強度アップにもつながる。適正の巻き付け数で正しくていねいに結んだものは仕上がりが美しく、強度的にも優れているのだ。

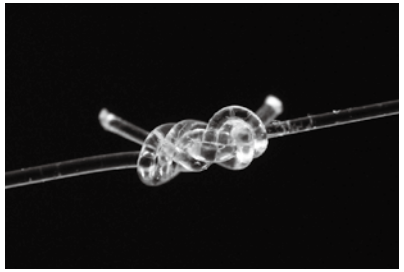
さらに、ラインは結ぶときの摩擦熱によって劣化しやすいので、これを防ぐために結びの最後の締め付け時に、必ずラインを唾液などで「濡らす」ことを習慣にしておきたい。

ほかにも注意点がいくつかあるので、ぜひ参考にしてみよう。



1 巻き付け数は適正に！

たとえばクリンチノットの場合、4回巻きでは結節強度がライン強度の60%ほどなのに対し、5回巻きでは90%近い強度を発揮することが実験で証明されている。とはいえ、巻き過ぎも逆効果になりがちなので、結びでの巻き付けは基本通りの適正な回数にすることが大切だ。

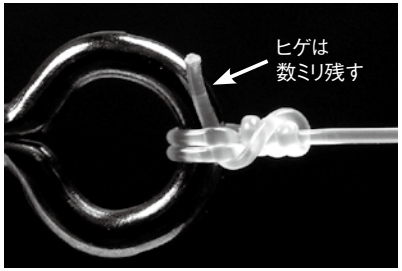


3 「美しい仕上がり」を目指す

結び目が弱くなる原因のひとつが、ラインの交差部分のつぶれ。雑に結ぶとつぶれる割合が多くなるので、できるだけていねいに均一に巻くことが重要だ。「美しい結び」は強度も優れている。

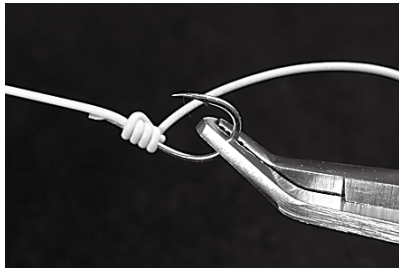
2 結び目を濡らす

素材を問わず、ラインは「摩擦熱」で強度が大きく低下してしまう。結び目を締めるときにも摩擦熱が発生するので、必ずラインを唾液などで湿らせてから、ゆっくり締め付けることが重要。



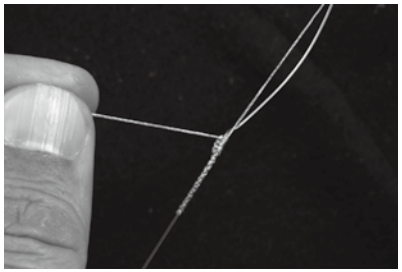
5 「ヒゲ」は数ミリ残すのが基本

結びの最後に残る端イト（ヒゲ）をギリギリで切ってしまうと、強い負荷が掛かったときにスッポ抜けることがある。ヒゲが長すぎても抵抗になってしまうが、数ミリ程度は残しておくのが安心だ。



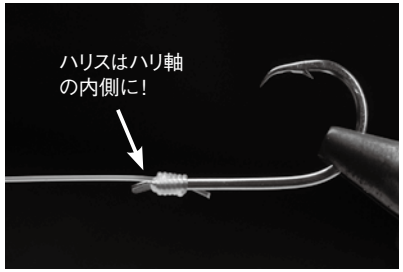
4 最後の「締め込み」を確実に

ライン切れしたときに、その先端がクルクルと縮れていたら結び目からスッポ抜けた証拠。これを防ぐには、結びの最後でしっかり締め込んでおくことが大切。強度も、これだけで確実にアップする。



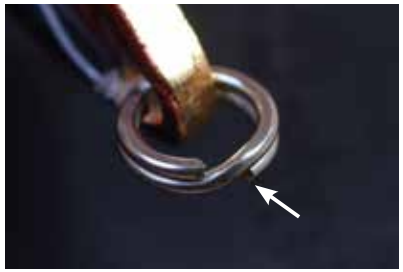
7 ラインのテンションを利用する

ラインを編み込みで補強するときなどは、ラインの本線を張り気味にしておくと作業がしやすくなる。ハリや接続具をどこかに引っ掛けたり、ミチイトの場合は竿先のテンションを利用するとよい。



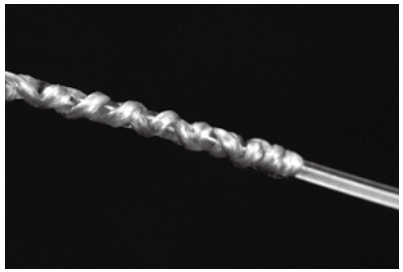
6 ハリスは「ハリの内側」へ

ハリを結ぶと場合、ハリスはハリ軸の「内側」にすることが大切。これが外側になっているとハリスがハリの耳に擦れて切れる原因になる。内側なら、魚が食ってきたときのハリ刺さりもよくなる。



9 スプリットリングは二重部分に！

ルアーのラインアイに付いている「スプリットリング」にラインを結ぶ場合、リングのエッジ部分（矢印）に結ぶとラインを傷つけることがある。必ずリングが二重になっている部分に結ぼう。



8 PEラインは「色の変化」に注目

PEラインとリーダーの結びでは、強く結び目を引き締めたときにPEラインの色が濃くなることが成功のバロメーター。摩擦系の結びの場合は、必ずPEラインの色の変化をチェックしてみたい。